

「花と緑で地域を元気に」

第3回 無農薬でバラ栽培にチャレンジ

神戸国際大学都市環境・環境学科教授
ランドスケープアーキテクト 白砂 伸夫

今回も引き続きバラのお話をしましょう。

バラと言えば、「綺麗で素敵だけど、栽培が難しい」、「庭に植えたけど、枯れてしまった」と、お決まりの返事が返ってきます。六甲アイランドCITYローズガーデンはまちの中に地域住民の方々が作っているバラ園です。ほとんどの方はバラ栽培が初めてで、それも無農薬で栽培しています。バラを良く知っている方ほど、無農薬で栽培できるはずがなく、きっと失敗すると思われるでしょう。しかし、このバラ園は活動4年目の2014年に“全国花のまちづくりコンクール”に初めての挑戦で国土交通大臣賞、兵庫県の“人間サイズのまちづくり賞”では知事賞を受賞しました。プロの方からも、無農薬で美しくバラが咲いている、と感心されます。このバラ園の3つの成功ポイントを紹介します。



バラを立体的に表現

1つ目は、品種選びに特徴があります。一般的なバラ園に植栽されている品種の多くはハイブリッドティーと呼ばれる系統です。確かにハイブリッドティーは大輪、四季咲き、華麗な色彩とバラの代名詞のような系統ですが、美しいバラを作出しようと交配を重ねた結果、病害虫に弱いという難点があります。

まちの中にあるローズガーデンは無農薬で栽培することが必須で、また初心者でも維持管理できるバラの選定が必要でした。丈夫な品種の選定を第一に、ハイブリッドティーは植栽しないという方針を立てました。四季咲き、大輪にはこだわらず、シュラブ、ポリアン



街並みと調和したローズガーデン

サ（小輪多花性）、立体的に演出するランブラーという系統の品種を選定しました。また草花も混植することで、他のバラ園とは異なった多彩な表現が可能になりました。

2つ目は、バラを栽培管理しているローズガーデンファミリーの方のバラへの愛情と創意工夫です。一般のバラ栽培のようにマニュアルに基づいた維持管理ではなく、日頃バラを育てる中で問題点を発見し、それを解決するという方法が生みだされました。既成概念を持たない素人ならではの強みです。

3つ目の「農家に学ぶ」は次回に紹介しましょう。



シュラブを中心とした品種構成



みょうごまちなみ ガーデンショー in 明石

..... 開催報告

明石公園を中心に明石のまちなみを花と緑で彩るこのガーデンショーは、「花と緑で元気な地域づくり！」をテーマに9月26日～10月4日の9日間にわたり開催されました。

会期中は天候にも恵まれ、ガーデンコンペを始め、県内農業系高校全11校の出展によるアグリハイスクールガーデン、県民参加型の夢プラン、体験教室などを来場者に楽しんでいただきました。

ガーデンコンペ各部門 兵庫県知事賞のご紹介

ガーデン部門



テーマガーデン
神野西山草会(加古川市)

今回の応募作品数は308点でした。各部門とも作品の質が年々向上していることが感じられます。その中で、コンペの各部門最高位となる兵庫県知事賞を受賞された作品をご紹介します。(敬称略)



ガイドツアーの一場面



寄せ植え
歌野秀利(姫路市)



ミニ寄せ植え
水田清美(養父市)



ハンギング・壁掛け
藤原美真子(加古川市)

花壇写真部門



コミュニティ・職域緑化
NPO法人メリーポピンズの会(宝塚市)



家庭緑化
中井哲男(三田市)



学園緑化
西宮市立段上小学校



明石フィルハーモニー管弦楽団



モニュメントガーデンの除幕式



幼稚園児の花の絵



PRガーデン

最終日には、“花と緑のまちづくりセミナー”を開催しました。

植彌加藤造園株式会社 代表取締役社長 加藤 友規氏による「京都の伝統庭園に見る心と技」、NPO法人Green Works 代表 NPO法人大田・花とみどりのまちづくり事務局長 牧野 ふみよ氏による「まちの風景をみんなとつくる」をテーマにした講演が行われました。

明石フィルハーモニー管弦楽団(たこフィル)の演奏と、フラワープリンセスの司会で開幕。

明石公園だけでなく、サテライト会場を明石市立花と緑の学習園、明石市役所、明石市立天文科学館～中崎遊園地の南北通りに設けました。



人気のパパたこ・はばタン

来場者の方々が手軽に体験できる花と緑の体験教室が6回、県民が企画したイベント“夢プラン”が7組実施され多くの参加者で賑わいました。幼稚園児の花の絵の展示もありました。

ご家族連れに楽しんでいただけるピザ作り体験やスタンプラリー、はばタン、パパたこの登場など子どもたちも大喜びでした。

また多数のボランティアの方々にもご活躍いただきました。

誠にありがとうございました。



サテライト会場の天文科学館前



夢プラン企画でのボルダリング



花と緑の体験教室



加藤 友規氏



牧野 ふみよ氏

ホームページ・facebookでの情報提供や、アルバムを作成しています。

[ひょうごまちなみガーデンショー in 明石]で検索できます。



花緑団体の紹介



祝! 第17回 人間サイズのまちづくり賞 花と緑のまちづくり活動部門(知事賞)受賞

今年度の、人間サイズのまちづくり賞 花と緑のまちづくり部門において知事賞を受賞されました2団体を紹介します。

庭先から始まる丹波の森づくりへ
「丹波の森花くらぶ」
(丹波市・篠山市)
世話人代表 松本 ひとみ

【設立の経緯】

平成12年4月に、花を通じて心の豊かさや住むまちの豊かさに繋がればと、花づくりの実践と会員並びに地域の人々との花を通じた交流を目的として発足しました。

現在の会員は丹波市・篠山市在住の37名です。

【主な活動】

「たんばオープンガーデン」の開催

個人のお庭を彩ることで地域が活気づけば、との思いがきっかけで平成15年春に第1回目をスタートし今春で13回目を迎えました。

丹波・篠山は地域が広く周りの環境はもちろん、花の咲く時期も住む人やライフスタイルも様々で、その多様性が庭に現れています。

「たんばオープンガーデン」を通して地域の良さの発見、人と自然の交流に取り組んでいます。

また、各地域では緑化活動団体のリーダーとして公共施設、集落の花壇などの維持管理を行っています。

さらに、花緑活動団体の設立や初期の活動支援など中間支援団体として普及活動にも取り組んでいます。

研修会

毎月第1木曜日を定例会とし、世話人を中心に企画、準備をして研修会をしています。花緑づくりの実践とそのため講習会、会員相互の交流と技術向上、アイデアの持ち寄りの場となっています。時には、ノコギリを片手に動物オブジェを作るなど、活動を通して植物好き仲間の交流の輪を広げています。



たんばオープンガーデン2014の一場面



ささやまの森公園での研修会「動物オブジェ」作り



丹波の森公苑での活動風景

【知事賞受賞と今後の課題】

今回の受賞は15年間の活動が認められた結果だと多くのご協力をいただいた方々に感謝しています。そして会員の気持ちを一つにして今後の活動にも弾みをつけることに繋がったと感じています。

今後も長く活動を続けていくためにPRに力を入れ、個人の技術の向上に努め、花や緑を通して人と人、人と自然が繋がる地域を目指し活動し続けたいと考えています。

合併からの地域創生活動
「南あわじ市花づくり協会」
 (南あわじ市)

代表 おおまた 大亦 昭

【設立の経緯】

南あわじ市花づくり協会は、平成18年（合併1年後）に旧4町の花づくりグループ119団体が地域間の連携を深める目的で設立されました。相互の研鑽を重ね、美しく住みよい街づくりを目指して活動し、今年10周年の節目の年を迎えました。現在125団体が活動しています。



地域での植栽風景

【主な活動】

協会で育てたおおよそ5万本の花苗を毎年配布していますが、会員の皆様の花壇の面積を考えるとまだまだ十分だとは言えず、希望に添えるよう努めています。

その他、緑花教室や講演会、また視察研修を実施し、会員の方々にはそれぞれ積極的に参加いただいています。今春“淡路花博2015花みどりフェア”が開催された南あわじ会場と、全国戦没学徒をお祀りしている若人の広場公園には、協会で育てた花苗を1年を通して植栽しています。



育苗風景

【知事賞受賞と今後の課題】

受賞については、会員各位のご努力による賜物と感謝しています。そして、四季折々の花が咲き乱れている風景を目の当たりにした時、市民はもとより街を訪れる人々に、この上ない“おもてなし”だと感じていただきたく、これからも「美しい街づくり」を目指して頑張りたいと思っています。



地域小学生と鉢植え教室

「人間サイズのまちづくり賞」とは

兵庫県では、阪神・淡路大震災の経験と教訓を踏まえ、平成10年度に制定した、都道府県初の「まちづくり基本条例」に基づき、生活者の視点に立った、安全に安心して暮らすことが出来る、魅力ある「人間サイズのまちづくり」を県民の参画と協働により進めています。

その一環として、平成11年度に従来の「さわやか街づくり賞」と「福祉の街づくり賞」を統合・再編して「人間サイズのまちづくり賞」を創設し、成熟時代にふさわしいまちづくりに寄与する優れた建築物や、まちづくり活動に顕著な功績のあった団体等を顕彰しています。

兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課

グリーンメッセージ

地域創生 ～小さな町での大きなチャレンジ～

本年度策定された国土形成計画の主要テーマが地域創生であるように、政府も地方自治体も「地方創生」が大きな政策課題となっています。そんな中、国レベルの計画に翻弄されることなく独自に地域活性に取り組み、着実に成果を上げている小さな町、徳島県上勝町の実践を紹介します。

上勝町は、徳島県にある四国一小さな町で、その約90%が山林、人口は約1700人、高齢化比率約52%と厳しい環境下にあります。料理に添える葉っぱを産業にした「いろどり」で有名になり、ご存知の方も多いでしょうね。※①



町を有名にした映画に関する、掲示板

また町は2003年に国内で初めてゼロ・ウェイスト（ゴミ・ゼロ）宣言をし、2020年までにゴミの焼却・埋立をゼロにするための取り組みを開始したのです。生ゴミの家庭内での完全処理、排出ゴミは、ゴミステーションへ各自持参し34分別のゴミ回収によって資源としての活用を目指すなど、ゴミ収集もゴミ袋もない世界の実現が目標です。

さらに、「日本で最も美しい村」連合※②を創り、「世界で最も美しい村」連盟に加盟するとともに、文化庁の重要文化的景観に指定された棚田の保全など、美しい地域資源を生かすため持続可能な美しいまちづくり基本条例を制定して「かみかつ美しい村づくり」を推進しています。

そのほか、「衣食住」から「地職住」※③へ転換するため、1Q（いっきゅう）運動※④による人材育成、第3セクター5社による産業振興と雇用創出、上勝アートプロジェクト「里山の彩生」※⑤など、その挑戦は多岐にわたりしかも独創的です。

町が描く将来像は、1. 環境保存（循環型社会をリードする町）2. 人口定住（若者が住みたくなるような魅力的な町）3. 経済・雇用（地域経済の活性化が

兵庫県参与（花と緑のまちづくり推進担当）

（公財）兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター長
石原 憲一郎

図れる町）ですが、1Q塾で学んだ地域住民の意識改革と起業家精神に富んだ地域リーダーの存在が、上勝町を輝かせる原動力となっています。

こうした取り組みを一地域の例と聞き流すのでなく、兵庫県下の県民・自治体・企業・教育機関などがそのチャレンジスピリッツを学んでほしいと強く願うものです。



休耕地で地域資材を使った作家の作品も

※①平成24年に、吉行和子らが主演で映画化された「人生・いろどり」に紹介されている。

※②現在、全国で62町村が加盟。兵庫県は現在なし。

※③地域資源を活用し、職を創り、住める地方を創造する事業展開
※④③を含め、1Q（いっきゅう）とは、町民が一休さんのように、問題（Question）を考え、知恵を使ったまちづくりを進めることを目指してつけられたフレーズ

※⑤「第22回国民文化祭とくしま2007」において、「上勝アートプロジェクト～里山の彩生～」と題した、作家と地域住民による野外アートの制作。

上勝町ホームページ <http://www.kamikatsu.jp/>



34項目の分別が行われるゼロ・ウェイスト施設

ほっと

●●● 相談員ニュース ●●●

シクラメンを長く楽しむ

緑の相談所長(NHK 趣味の園芸講師) 若松 康史

花の少ない冬を彩るシクラメンには、屋外で楽しめるガーデンシクラメンから室内を豪華に彩る大型種まで様々な種類があります。一昔前は鉢物のシクラメンといえば大型種が多かったのですが、最近はガーデンシクラメンの血が入った中型種が多くなり、丈夫で育てやすくなりました。

◎選び方

葉が多く、株元から咲いた花まで、蕾がいくつも上がっているものを選びます。

近年見かけるようになった底面給水鉢は、生産者が水やりの労力を軽減させることを目的として開発されたものですが、見た目も良く、直接テーブルに置いても汚れないといったメリットがあります。ただ、常に水がある状態で生育させており、鉢に比べて地上部が大きいものは、水切れすると直ぐにしおれる場合があります。底面給水鉢で育てられたシクラメンを選ぶ場合は、頭でっかちでなく株の詰まったものを選ぶと良いでしょう。

◎置き場所

シクラメンは購入時点でそのシーズンに咲く花数がほぼ決まっており、花芽をいかに大きくして、数多く咲かせるかがポイントとなります。

室内では温度より光の条件が重要になります。日光不足では小さな蕾が大きくなる前にダメになって咲きません(写真1)。1日に2～3時間以上日光が当たるような場所に置くことが大切です(写真2)。日光の差し込まない所に置いている場合は、気温が低くても晴天時は日当たりの良い屋外に置くと良いでしょう。30度近くの高温が続くと早く咲き終わってしまうので、日中は高温になりすぎないように心がけてください。

置き場所の違いによる成長の比較(購入後3カ月)



(写真1) 直接日光が当たらない場所で管理



(写真2) ガラス越しの光が2～3時間当たる場所で管理

◎水やり・肥料

株に水をかけると株もとが蒸れて腐りやすくなるので、水やりは表土に静かに行います。表土が白っぽく乾き始めれば水やりします。水が切れて花や葉が垂れ下がってしまうと蕾もダメになるので、乾きすぎに注意してください。底面給水鉢では下の穴から水を注ぎ、下皿の水が完全に無くならないようにします(写真3)。開花期間が長いので肥料切れしないよう、液体肥料を1～2週間に一回、規定濃度に薄めて施します。底面給水鉢では2～3週間に1回程度、溜まった水がなくなった時に規定濃度に薄めた液体肥料を下の穴から注いでください。



(写真3) 底面給水鉢の水やり

県立公園などの年始イベントの紹介

詳細は各公園にお問い合わせになるか、HPをご覧ください。

公園名	イベント名	日時	イベント内容
フラワーセンター TEL 0790-47-1182 (加西市)	お正月特別開園 	1/2 (土) ~4 (月) 9:00~16:00 (入園は15:00まで)	・花クイズウォーキングラリー ・豪華景品が当たる福引 ・おもしろ自転車 ・ふわふわ遊具 ・フラワーショップではお得な“福箱”を販売します。
舞子公園 TEL 078-785-5090 (神戸市垂水区)	舞子海上 プロムナード 初日の出、 正月営業 	1/1 (金) 6:30~12:00 (最終入館11:30) 1/2 (土)、3 (日) 10:00~15:00 (最終入館14:30)	元旦に展望ラウンジより初日の出を見ることが出来ます。
 旧木下家住宅	絵馬を書こう！	1/1 (金)~1/24 (日)まで ※1/12 (火) 休館日	あなたの書いた絵馬カードを、展望ラウンジに飾ります。
	旧木下家住宅青松庵 抹茶体験	1/9 (土) 10:00~15:00	松の見える茶室で抹茶をいただきますませんか？ 参加費500円 (入館料別)
	二胡 ミニコンサート	11:00~11:30	無料 (入館料別)
赤穂海浜公園 タテホわくわくランド TEL 0791-45-0800 (赤穂市)	お正月タテホこども わくわくフェスタ 	1/2 (土)、3 (日) 10:00~16:00	甘酒の無料振る舞い、縁日ハピネスカーニバル、乗り物(観覧車・ゴーカート・自転車など)利用の子どもにおもちゃプレゼント
丹波並木道中央公園 TEL 079-594-0990 (篠山市)	凧作りと、 ぜんざいのふるまい 	1/10 (日) 11:30~14:00	かやぶき民家にて 凧作り参加費200円 ぜんざいのふるまいは先着順、無くなり次第終了
国営明石海峡公園 TEL 0799-72-2000 (淡路市)	あわジオ フェスティバル 	12/19 (土) ~1/11 (月・祝) 淡路島 国営明石海峡公園 ビジター棟	・化石の展示、レプリカづくり ・化石をさがそう ・ダンボール&木工クラフト

- * 年末年始の園芸相談コーナーは、12月29日(火)より1月3日(日)まで、お休みしています。
- * 1月4日(月)より通常通り、相談受付けます。
- * 5日は火曜で休みです。

園芸相談コーナー

10:00~12:00

13:00~16:00

火曜日を除く毎日

TEL 078 (918) 2405

FAX 078 (919) 5186

写真や実物をご持参いただきますと、お話ししやすくなります。

花と緑のまちづくりセンターだより 35号

- 平成27年12月25日(年4回発行)
- 編集発行 公益財団法人兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター長 石原 憲一郎
〒673-0847 明石市明石公園1-27 花と緑のまちづくりセンター
TEL:078(918)2405 FAX:078(919)5186 Eメール:info_midori@hyogopark.com